

中高校生の先生方へ(吃音の情報)

吃音(きつおん)とは

吃音は2016年施行の「障害者差別解消法」の対象疾患です。生徒の100人に1人は吃音があります。幼少時は連発(ぼぼぼぼくは...)が主ですが、中高校生では難発(最初の一音がなかなか出ない)の吃音が主となります。流暢に話せる時間が多く、どもってしまう時間が少ないので、先生に伝えると「気づかなかった」と言われる場合が多いです。普段流暢に話していても、電話や発表、普段の会話時に最初の言葉が数秒でなくても(どもってしまっても)、注意せず、ビックリせず、笑わずに、話の内容に注目してください。

吃音は同じ言葉を2人で言うとももらないという特徴もあります。吃音のある生徒は、「吃音があることを知ってほしい」「最後まで話すのを待ってほしい」「ゆっくり・おちつのアドバイスは不要」という配慮だけでも十分に思う学生はいます。JASSO「教職員のための障害学生の就学支援ガイド」に似た形で作成しました。不当な差別的取り扱いの禁止と、合理的配慮の提供をよろしくお願いいたします。

高校入試・学校生活の悩み

1. 面接で吃音が出ることで、減点されないか心配。
2. 音読・発表で、声がかかなか出ない難発の吃音が出て、不勉強・反抗的と思われないか心配。

支障(バリア)となる場面

音読(国語・英語・社会) 自己紹介 発表 日直・号令 卒業式・立志式
職員室で自分・先生の名前を言うこと

支援が必要な場面	どのような困難さ	どのような支援が考えられる
入学試験	面接時「失礼します」「自己紹介」など、流暢に言えない	時間的な余裕の確保、寛容な聞き手の姿勢
学習支援	出席、卒業式の点呼に「はい」という言葉が言えない	挙手で確認、または返答する時間的な余裕の確保
	授業中の発表(音読、英語スピーチを含む)に時間がかかる	時間的な余裕の確保、または録音音声の使用。担当教員との配慮の確認
英検・GTEC	面接・スピーキング試験が心配	英検 HP「障がい者に関する特別措置要項」、GTEC も配慮あり
部活	他生徒から笑われる、とっさの声かけができない、審判が苦手	笑わないように指導、声が出なくても叱責しない、審判を他の生徒に変更
生活支援	友人が作れない	心理カウンセリング、学外連携を活用
面接支援	就職・進学面接が怖い	面接の練習(吃音が出ることを前提に)

【学外連携】各都道府県の言語聴覚士会、NPO 法人全国言友会連絡協議会、小中高校生の吃音のつどい、ういーすたプロジェクト(関東、東海、関西など)。